

言葉を科学する 人間の再発見

Day12:「意味」の再発見(2)

1. 意味合成の規則
2. 内容語と機能語
3. 疑問詞・普遍量化詞・束縛変項

本資料及び資料に含まれる第三者著作物を再使用する場合、
利用者は、それぞれの著作権者より使用許諾を得なくてはなりません。

今日の講義の前に(1)

自分の見たいものだけを見てしまう
信じていることだけを読みとってしまう

「思考の言語」のピンカーのポイントは？

「言語が思考を規定するわけではない」

今日の講義の前に(1)

次の考え方に賛成、反対？

日本人は「現在の可能性」と「これから起こる可能性」の概念の区別はできない？
なぜなら、どちらも同じ言語表現で表すから

- a. 彼は元気**だろうか**？（現在の可能性）
- b. 彼は来る**だろうか**？（これから起こることの可能性）

今日の講義の前に(1)

- ・中国語の仮定法
- ・日本語には“the”も“a”もない
- ・英語には「は」も「が」もない

今日の講義の前に(1)

<読んだ感想から>

- ・言語が思考を規定していることが分かった
- ・色を表す単語が、3つしかない言語の話者は、それ以外の色が認識できないとは驚きだ

内容を真逆に理解している人がいます
興味深い問いは「なぜ誤って読む？」

都市伝説をもう一つ イヌイットの雪の語彙だけじゃない

オオカミに育てられた少女

この話は「でっち上げ」

興味深い問い：

なぜいつまでのこの話が広く信じられ続けるのか？

鈴木光太郎「オオカミ少女はいなかった」(新曜社)

1. 意味合成の規則

(1) 「机」の意味特徴

- a. 足があり天板があり、その上で人が何かを行う家具
- b. 仕事や勉強に使う
- c. 食事にも使う
- d. 足がないものもある
- e. 段ボール箱である場合もある
-

(2) 「作る」の意味特徴

...

名詞や動詞など

(3)

ほぼ同じ意味特徴を共有

でも

細部のイメージには個人差ありうる

Class Work 12-1:「AはBです」の意味

「～は...です」の基本的意味機能

a. 「 $A = B$ 」という意味機能

(例: 東京は日本の首都です)

Class Work 12-1:「AはBです」の意味

「～は...です」の基本的意味機能

- a. 「 $A = B$ 」という意味機能
(例: 東京は日本の首都です)
- b. 「AはBの一種」という意味機能
(例: タロはカラフト犬です)

Class Work 12-1:「AはBです」の意味

「～は...です」の基本的意味機能

- a. 「A = B」という意味機能
(例: 東京は日本の首都です)
- b. 「AはBの一種」という意味機能
(例: タロはカラフト犬です)

上記(a)(b)以外の意味機能(「～は...です」
の用法)のタイプをできるだけ挙げて。

(4) 「机」+「を」+「作る」

(5) 意味合成の規則

(4)では、「机」は作られる対象として解釈

(6) この意味合成の規則に個人差はありますか？

Yes / No?

(7) 太郎は地下鉄で大学に来た

(8) a. 意味の共通理解

「太郎」＝動作主、「地下鉄で」＝手段、

「大学に」＝目的地

「来た」＝行った動作

(発話時点より前に終わっている)

b. 個々の単語の意味のイメージは微妙に違うが、通常共通理解には支障はない

c. (8a)が得られるのは、意味合成の方法が共通だから

(9) 平叙文+「～の？」の意味合成規則

「太郎は地下鉄で大学に来た」+「**の？**」

平叙文で述べられている内容が正しいかどうか
を聞き手に尋ねる意味機能

「～の？」の機能、「平叙文＋の？」の合成規則

(10)

a. 個人差はありますか？

b. 子どもはどうやって覚えるのか？

(同じ言語共同体でも個々人の具体的言語経験はばらばら。にもかかわらず獲得する意味機能に個人差がないとしたら、...)

Day 12

1. 意味合成の規則
2. 内容語と機能語
3. 疑問詞・普遍量化詞・束縛変項

(11)内容語content word

- a. 名詞、動詞、形容詞、副詞など
- b. 数は無限、常に生産されている(open class words)
- c. 話者によってその量と内容に差がある
- d. それぞれの語の意味特徴も微妙な個人差がありうる

(12)機能語function word

- a. 助詞、時制辞などの語尾形態素、疑問詞、後置詞・前置詞、数量詞(every, some, many, most)、代名詞、指示詞(こ・そ・あ)など
- b. それぞれ数は有限 (closed class words)
- c. 基本的にどの話者も同じ語彙数
- d. それぞれの語の意味機能に個人差はない(ように思われる)

機能語の意味機能

(13)

「は...です」の意味機能

「～の？」の意味機能

「～を」の意味機能

「なぜ～の？」の意味機能

(理由を尋ねる)

「机」の時のような個人差はある？

Class Work 12-2

ここでちょっとみんなで考えてみよう

子供を対象と言語研究の実験

架空の単語を教えるのは？

- a. 特に問題ない
- b. 問題がある

Day 12

1. 意味合成の規則
2. 内容語と機能語
3. 疑問詞・普遍量化詞・束縛変項

(14) 疑問詞の意味機能

「何を ... の？」は、文の中でどのような意味機能を果たす言語表現といえるか？

例： 太郎は、何を食べたの？

君は、何を作ったの？

花子は、何を読んでいるの？

次郎は、康子に何をあげたの？

(15)「何を ... の？」の意味機能

太郎は、何を食べたの？

「何を～の？」の機能

(15)「何を ... の？」の意味機能

太郎は、何を食べたの？

「何を～の？」の機能

Xに入れると次の文が、正しいことを言っているようになる、Xの正体を教えて？

「太郎は X を食べた」

英語のwhatの意味機能は？

What did John eat?

英語のwhatの意味機能は？

What did John eat?

Xに入れると次の文が、正しいことを言っているようになる、Xの正体を教えて？

John ate X

「何を～の？」

日本語母語話者同士で、意味機能の理解が
共通（個人差なし(?)）なだけでなく、
英語の（疑問詞としての）whatとも意味機能が
共通？

ドイツ語のwasとも共通？

フランス語のqueとも共通？

(16)

a. 個人差がありますか？

b. 子どもはどうやって覚えるのか？

(同じ言語共同体でも個々人の具体的言語経験はばらばら。にもかかわらず獲得する意味機能に個人差がないとしたら、...)

世界中の言語でwhatに当たる語の意味機能が同じなのはなぜ？

< 普遍量化詞 >

(17)

a. Every boy came to the party.

b. どの男の子も宿題を忘れた

(18)

普遍量化詞 (universal quantifier)

a. every

b. どの ... も

(19) 「どの ... も」の意味機能は？

普遍量化詞

- (21)状況：今教室に男の子が8人、女の子が5人
- (22)もし「どの男の子も」という言語表現が、教室にいる男の子全体の集合を「指示する」表現だとしたら、次の文で「男の子の数が女の子の数よりも多い」という意味になるはず

男子8人、女子5人のクラス

(23)

このクラスでは、**どの男の子も**、女の子より数が多い

(24)「どの男の子も」は、このクラスの男の子全体の集合を指すわけではない

(25)

では、「どの男の子も」(あるいはもっと一般的に「どのXも」)の意味機能は？

(26)どの男の子も宿題を忘れてきた

(27)

どの個人を選んできて、それが「男の子」であれば、次の文のXに入れると、正しいことを述べていることになります

「 X 宿題を忘れてきた」

(28)「どのXも」を含む肯定文は、

その部分にどの個体Xを選んで入れてもその文が正しいことを述べていることになる、

という意味機能を持つ

(29)「どのXも」のXに入る名詞の意味は、
微妙な個人差があるかもしれない

しかし、

(30)

「どのXも」という普遍量化詞表現の意味機能に、個人差はある？

<束縛変項>

(31) 束縛変項 (bound variable)

(32)

a. どの男の子も、**自分の**自転車を洗った

(33) 連動読み (bound variable interpretation)

- 男の子A —— Aの自転車を
- 男の子B —— Bの自転車を
- 男の子C —— Cの自転車を

(34)「自分」は普遍量化詞表現「どの男の子も」に
束縛bindされた解釈を受ける

どの男の子も、自分の自転車を洗った

(35) 束縛変項としての「自分」の意味機能に個人差はある？

(36) 子どもはどうやって、束縛変項としての「自分」の意味機能を獲得したのか

(37)「どのXも」や「自分」は、かなり抽象的で複雑な意味機能を持つ

- この意味機能の言語知識が母語話者に共通だ（個人差がない）としたら、どうやって身につけたのだろうか？（個々人の言語体験はばらばらなのに

(38) 生得説の立場からの見解

- 疑問詞の機能意味概念、普遍量化詞の機能意味概念、束縛変項の機能意味概念を子どもは生得的に持っている(身につくようにできている)

生得説の立場からの見解

- 言語獲得は、すでに持っているその概念が、自分の母語でどのような発音の言語表現であらわされるのかを学べばよい
- 英語なら: what, every, ... (代名詞・再帰代名詞)など
- 日本語なら:「何...の?」「どの...も」「自分」など

5. 意味を扱う能力まとめ(中級編)

1. 意味合成の規則: 個人差はないかも。(どうやって身に付けた?)
2. 内容語と機能語: 前者はopen class (個人差あり)、後者はclosed class (個人差なし?)
3. 疑問詞・普遍量化詞・束縛変項: 意味機能を獲得できるようにできている